



真田幸村の章

元和元年(西暦1615年)、前年の大坂冬の陣の直後から、徳川家康の命によって、大坂城の城は本丸を残し、すべて埋め立てられていた。こうなってしまうと、難攻不落の名城とうたわれた大坂城とて、裸同然である。家康の周到な準備に裏付けされたこの作戦によって、豊臣氏は、つづく大坂夏の陣において滅亡、同時に豊臣方についていた武将たちも数多く死んでいった。

後藤基次や木村重成らとともに、最後まで徳川方を悩ませた武将、策士として知られる真田幸村もそのうちのひとりであったが、偉大なる魔法使いエティスは彼が死んではいない、と説いた。幸村は、魔の力によって蘇ったというのだ。そして幸村は自分の故郷に戻り、忍者軍団を組織し、徳川家康の暗殺をもくろんでいるという……。

登場人物



敵モンスター



真田幸村(1567-1615)

武田信玄の将、真田昌幸の次男として生まれ、徳川家康に仕えた。だが、関ヶ原の戦いでは、父、昌幸とともに西軍の将として信州上田城に入り、徳川秀忠の軍を翻弄。戦後は高野山に流されたが、大坂冬の陣、夏の陣には豊臣秀頼の招きにより入城。徳川方を悩ませたが、ついに戦死した。



小助

もとは、徳川家に仕えていた忍の者であったが、幸村の手の者にそそのかされ、真田忍軍の一員となってしまう。



あかね

家康が全国に放った“くのいち”のひとり。命によって幸村の屋敷に潜入したが、その後ブツリと連絡を断ってしまった……。



天狗

山伏の姿に似て、鼻が高く、翼を持っている。その神通力で空中を自由自在に飛び回るため、剣を当てることは難しい。カとって、もちろん魔法は効かないので、やはりタイミングを合わせて斬りつけるしかない。高空から舞い降りつつ、蹴りを放つ瞬間だけを狙って叩くのが、最良の攻撃方法だが、ヒットポイントは260もあるぞ。